

# 東京都獣医師会が実施する 学校飼育動物獣医師養成講座の紹介

中 川 清 志

東京都獣医師会（以下、本会）では、2019年度から、学校飼育動物獣医師養成講座を年間3回の連続講座として開催している。

学校飼育動物に対する組織的な活動は、1982年北多摩支部（保谷市、田無市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市）で始まり、子ども達が小学校で飼われている動物達を、内緒で動物病院に連れてくる事態に心を痛めた獣医師達が「動物通信」（動物飼育の手引き書）を作り各小学校に配布した。

1991年には保谷市で、飼育指導を含んだ事業を教委から受託した。

本会としても、エキゾチック動物と位置づけられる、ウサギやチャボの診療についての講習会を実施した。

その後、貴会鳩貝太郎会長や本会中川美穂子元理事などを始めとする多くの関係者の働きにより、1998年以降の学習指導要領解説・生活編では、学校飼育動物活動を行うにあたり、獣医師との連携が明記されるに至った。

しかし、本会会員にも、獣医師側の一方的な思いにより小学校での動物飼育を推進しているかのような誤解も認められ、さらに、否定的な意見を持つ獣医師や、断片的な資料を基に活動を非難する政治家や愛護団体も一定数存在し続けている。

本会としては、多くの先行研究に基づき、我が国における将来を担う子ども達が適切な動物飼育を通じ、自己肯定感および自己以外の存在に対する寛容な心を養い、そして愛着を持った相手の死という得がたい経験を通し生命に対する感性を磨く経験を与えることは、子ども達が育っていくために重要であると認識している。東京都は賃貸住宅居住者も多く、子育て世帯にとって動物飼育が難しい環境でもあり、公立小学校が果たす割合は大きいと考えている。

そのため、学習指導要領に基づき実施される学校飼育動物活動の全体像を獣医師に対して情報提供し、且つ本会地域支部同士の情報交換の場を提供することにより、獣医師全体の意識向上および各小学校が抱える問題を解決する糸口を提供し、動物飼育を児童にとって望ましい活動とする目的で、表題講座を開催している。

初年度（2019年度）は渋谷一典文部科学省教科調査官から「学校飼育動物がもたらす教育的価値と新学習指導要領」、庭野正和貴会副会長から「学校飼育動物活動に期待される効果」および、茂呂美恵子田園調布前小学校長から「小学校で動物を飼うことの意味と教育方針」についてご講義頂いた。また、各論として、ウサギ、チャボ、モルモットの臨床を、本会会員田向健一獣医師（田園調布動物病院）および小嶋篤史獣医師（鳥と小動物の病院リトルバード）から解説頂いた。3回で延べ210名程の参加者を得、各回ともに講師を交えた活発な意見交換や、地域支部からの実践報告もなされた。

本年度はCOVI-19の影響により、残念ながらオンラインでの開催となっているが、都教委から「学校飼育動物にかかる獣医師を活用するためのガイドラインについて」および「小学校動物飼育推進校事業について」および桑原保光群馬県獣医師会副会長から「群馬県獣医師会「動物ふれあい教室」の取り組みについて」をご講義頂いた。今後、高橋亨西東京市立けやき小学校前校長から「学校飼育動物の教育的意義と学校獣医師への感謝」についてご講義頂く予定である。

各年度とも、3回を通じて出席した参加者に対しては、本会から修了証を発行する。

出席獣医師からは、「学校飼育動物活動の全体像が理解できた」、「思いやりを育てるために小動物との関わり合い方の重要

性がわかった」,「他支部との情報交換ができて良かった」など,前向きな意見が多く聞かれた。

今後,更に効果的な開催方法を模索しながら,獣医師および子ども達にとって有益な講習会を開催していく予定である。獣医

師であれば,本会会員でなくても参加を受け付けている。多くの獣医師の参加により,全国的に学校飼育動物活動が前進することを期待している。

((公社)東京都獣医師会 副会長)